

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075400285
法人名	社会福祉法人直鞍会
事業所名	グループホームやすらぎ園
所在地	福岡県鞍手郡鞍手町木月1599番地 (電話) 0949-42-6883

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	H21年 5月 28日	評価確定日	H21年 7月 6日

【情報提供票より】 (平成21年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 8人 非常勤 6人 常勤換算 11.3

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 2階建ての ~ 1.2階部分
------	-------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		円 1ヶ月30,000円	

(4) 利用者の概要 (平成21年5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.3 歳	最低	71 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鞍手町立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣には田畑や住居が点在し、法人敷地内には介護老人福祉施設、デイサービスセンター、在宅介護支援センターが隣接している。敷地内には、菜園や桜の木等が植えられている。また、地域交流スペースがあり、地域ボランティアの協力を得て、書道、竹細工、紙細工等のレクリエーションが行われている。食事や健康管理等に配慮しており、一人ひとりの要望を引き出しながら、支援している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価での改善点について、全職員で協議し、改善計画を立て取り組んでいる。家族へも外部評価の結果を書面で報告し、意見や要望を聴いている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価を踏まえ、自己評価は職員全員の意見を聴き、管理者で集約している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、外部評価の結果や行事報告、利用者の生活状況等を報告し、委員と意見交換を行っている。会議内容は職員会議で検討し、利用者へのサービス向上に繋げている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族会はないが、家族の面会時に利用者の生活状況を報告し、家族からの要望や苦情等を聴くように心がけている。出された意見は、ミーティングや職員会議等で改善策を検討して、サービス向上に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内行事に参加するだけでなく、地域交流スペースで、地域ボランティアの協力を得ながら書道、竹細工等のレクリエーションを実施している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念があり地域の中で「その人らしさを大切に 心安らぐ生活を」と地域密着型の視点が含まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼やミーティング時に理念を確認しながら、利用者が地域の中で暮らしていくケアの実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域行事へ参加している。また、ボランティアの協力を得て、交流スペースで書道や竹細工等のレクリエーションを行う等地域の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員に意見を求め、管理者等で集約している。前回の外部評価の課題については管理者、職員で改善に向けた話し合いを行い、家族等の意見も聴き改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している。行事計画、利用者の生活状況、外部評価結果等を報告している。前回の外部評価での課題についても委員から意見をもらいサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>受託事業である介護者教室の開催を行う等行政へ行き来する機会が多く、連携を密に図っている。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度について窓口パンフレットを準備し利用者・家族に説明している。また、職員は内部研修を実施し、参加できなかった職員には資料の配布を行い伝達し、周知徹底を図っている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に利用者の生活状況を報告している。各居室に利用者個別のアルバムが置かれており、生活ぶりや表情が写真で判るようになっている。月に一回家事所便りや金銭出納簿のコピー等を郵送している。ホームページを開設して事業所の情報を紹介をしている。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時に要望や意見等を聴くように努めており、その中で出た要望等を運営に反映させている。第三者苦情の相談窓口は玄関に掲示されている。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。また、ユニット間で全利用者の状況を把握しており代わる場合の利用者への負担を防ぐ配慮をしている。やむを得ず異動が生じた場合には引き継ぎ期間を十分に設けている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に当たっては年齢、性別等の区別はない。法人間の連携が図られており、職員が安心して働けるよう職場環境に配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>内部研修を行い、全職員で人権に配慮したケアの確認を行っている。またテキスト・パンフレットがある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、内外部の研修を受ける機会を日常的に確保している。研修内容は、伝達講習や資料回覧を行い全職員へ伝える仕組みがある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者と職員は、地域勉強会や町内のボランティア連絡協議会主催の懇談会に参加している。また近隣のグループホームと交流しサービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学を行い、関係者と十分な打合せを行う等、馴染みの関係を築くよう努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	調理や野菜作り等利用者の得意分野に力を発揮してもらい、利用者職員が共に過ごし支えあう関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は毎日の生活の中で利用者に声をかけ、年に一度利用者の希望を聴き取る「お願い帳」を作成する等、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は家族等から情報を得て本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画は利用者・家族の意向・希望を聴き取り、職員の気付きや意見を出し合い、個別の介護計画を作成している。介護計画には家族の署名・捺印がある。		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。また状況・状態の変化時は随時計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	利用者の入院時には、職員が訪問し状況・状態を把握し、医療機関・家族と早期退院に向けた連携を取っている。通院や送迎等の必要な支援を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を基本としている。往診可能な医院も確保しており、利用者の状況・状態は緊急時を含め、家族との連絡を密に行い適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の在り方について指針が文書化されている。利用者・家族には入居時に十分説明を行い合意を得ており全員で方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護のマニュアルがあり、内部研修も行われ、さりげない言葉かけ等が実践されている。ケア会議や事業所内会議等で職員の意識向上・共有化が図られている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の希望・体調・都合に合わせた過ごし方を支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、出来る範囲で調理・配膳・片付け等を一緒に行っている。職員は同じテーブルで利用者と会話を楽しみながら同じ物を食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴は、おおまかな時間の設定はあるが、希望があれば柔軟に対応して入浴が楽しめるよう支援している。入浴拒否がある利用者には声をかけを工夫しながら入浴の支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の特技や趣味等を把握し、食事の準備・片づけ、野菜作りのアドバイス等役割を支援している。また竹細工・毛氈作り・書道等のサークル活動は利用者の楽しみになっている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけている。また月1～2回の買い物やドライブ、年数回の花見や外食等、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は利用者の状態や職員の配置等から施錠する時がある。家族からも安全のため施錠を希望されており、同意を得ている。外出傾向のある方には外出の機会を増やし付き添って出かけるようにしている。	○	利用者の安全を図りながら、日常的に鍵をかけないケアや工夫をしてほしい。
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備している。避難訓練は年2回消防署の協力を得て実施し、地域住民に参加協力を呼びかけている。非常食・飲料水・備品は法人に備蓄されている。	○	非常食や備品等は事業所独自でも準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量の記録は利用者全員分ある。水分摂取量は把握しているが、必要な方のみ記録している。献立は、利用者の嗜好を考慮し法人内の管理栄養士が作成している。	○	全利用者分の水分摂取量の記録をつけてほしい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はサークル活動や文化祭に出品した作品が飾られ、ソファや掘り炬燵のある畳のスペースが設けられている。採光や音も調整され居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの小物が持ち込まれている。また、サークル活動の作品や家族の写真等が飾られ、その人らしく過ごせる空間になっている。		

※  は、重点項目。